

## 事業再評価シート

事業名	道整備交付金事業		
箇所名	森林基幹道 十根川・三方界線	市町村名	椎葉村

(上段は前回、下段は今回)

実施方法	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 交付金 <input type="checkbox"/> 県単			
事業期間	採択年度	再評価年度	完了予定年度	
	S 6 1	H20	H25	
		H26	H28	
事業進捗	全体事業費 (百万円)	既投資額 (百万円)	進捗率 (%)	
			事業費	用地
	4,500	3,475	77.2	-
	4,500	3,775	83.8	-
再評価の概要	対象選定理由		事業効果(B/C)	対応方針原案
	再々評価後5年経過		1.35	継続
	再々々評価後5年経過		1.42	継続

全体計画																													
<p>① 全体計画延長：24,200m          起点：椎葉村大字下福良          終点：椎葉村大字不土野</p> <p>② 利用区域内の森林の現況</p> <p style="text-align: right;">単位：ha</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="width: 30%;">利用区域面積</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">うち民有人工林面積</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2,595</td> <td style="text-align: center;">1,243</td> <td></td> </tr> </table> <p>③ 森林整備計画（10ヶ年計画）</p> <p style="text-align: right;">単位：ha</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">H14-H23</th> </tr> <tr> <th>計画</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主伐</td> <td style="text-align: center;">23</td> <td style="text-align: center;">23</td> </tr> <tr> <td>間伐</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td style="text-align: center;">343</td> </tr> <tr> <td>造林</td> <td style="text-align: center;">15</td> <td style="text-align: center;">23</td> </tr> <tr> <td>保育</td> <td style="text-align: center;">63</td> <td style="text-align: center;">29</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: center;">361</td> <td style="text-align: center;">418</td> </tr> </tbody> </table>				利用区域面積	うち民有人工林面積		2,595	1,243		区分	H14-H23		計画	実績	主伐	23	23	間伐	260	343	造林	15	23	保育	63	29	計	361	418
利用区域面積	うち民有人工林面積																												
2,595	1,243																												
区分	H14-H23																												
	計画	実績																											
主伐	23	23																											
間伐	260	343																											
造林	15	23																											
保育	63	29																											
計	361	418																											

事業概要	
＜林道開設＞	
全体延長	24,200 m
総事業費	4,500 百万円
事業期間	昭和61年度～平成28年度
＜林道区分＞ 森林基幹道	
自動車道区分	2 級
車道幅員	3.0 m
全幅員	4.0 m

事業目的	
○目的、必要性	
椎葉村大字下福良と大字不土野とを結ぶ2,595haの森林内の路網の骨格となる基幹道を開設することにより、	
①効率的な森林経営や森林の適正な管理	
②災害時における奥地集落の迂回路的機能の発揮としての機能を果たす。	
○計画での位置付け	
民有林林道網整備計画・地域森林計画による	
○事業を継続する必要性	
昭和61年度から開設を始め、平成24年度末現在における計画延長に対する進捗率は97%と開通間近であり、全線開通することによる林業生産性の向上をはじめ、地元の期待が高いことから、事業を継続する必要がある。	

事業の進捗状況	
○現在の事業進捗状況	
平成24年度末現在	事業費進捗率：83.8%(3,775百万円/4,500百万円) 延長進捗率：97%(23,386m/24,200m)
○今後の事業進捗の見込み	
完成区間は既に供用を開始しているが、残りの区間（約820m）については引き続き整備を図り、平成28年度までには全線完成する予定である。	
○事業が長期化している理由	
標高が高く冬期における作業中断に加え、地形が急峻で地質が悪い環境のなかでの開設作業となったことから進捗が遅れている。	

社会情勢等の変化

①利用可能な国内の森林資源が充実しつつあることから、安定供給可能な資源として国産材への期待が高まっている。

スギ素材生産量（全国1位）	平成25年	1,564 千m3
製材品出荷量	平成24年	677 千m3
	うち県外出荷	451 千m3 (67%)

②利用可能な林分が増えており、今後は、主伐や長伐期施業の増加が見込まれる。  
県全体（平成25年）

- ・ 保育管理が必要な7齢級以下30%
- ・ 収穫可能な8齢級以上70%

本路線の状況

民有人工林面積	うち収穫可能な面積 (8~10齢級以上)	割合
1243ha	795ha	64%

③木材価格が長期に低迷しており、生産コストの縮減が重要となっている。

スギ素材価格（中丸太）

前回(H20)	11,700 円/m3
現在(H25)	11,200 円/m3

（参考）

宮崎県森連 林産物流通センター

(H26.10月) 価格 3市場平均単価 13,900円/m3

④地球温暖化防止のためのCO<sub>2</sub>森林吸収源対策として、間伐等の森林整備・保全を一層加速化していくことが重要となっている。

間伐計画	国（H25~32年度）	毎年52万ha	計416万ha
	県（H25~32年度）	毎年1万ha	計8万ha

⑤木材需要増加への対応が求められている。

大型製材工場や木質バイオマス発電施設の稼働に伴い、木材需要が増加傾向にあることから、これらに対応していくことが求められている。

⑥現在も地域住民からの早期開通が望まれている。

当路線は、全線開通が間近であることに加えて、森林管理及び木材生産の基盤、非常時におけるバイパス的役割等多様な用途が期待されていることから、早急な開通が望まれている。

事業効果の分析

○費用対効果 (B/C)

総便益 (B)		総費用 (C)	
項目	金額 (千円)	項目	金額 (千円)
木材生産等便益	7,975,676	事業費	6,849,326
森林整備経費縮減等便益	1,686,290	維持管理費	12,433
一般交通便益	547	合計	6,861,759
維持管理費縮減便益	110,106		
合計	9,772,619	総便益 (B)	9,772,619
		総費用 (C)	6,861,759

= 1.42

○事業を継続することの事業効果分析

- ①林業生産性向上による低コスト化
- ②災害時における迂回路等交通ネットワークの強化

○開設効果指数

生産指数 + 育林指数 = 4.75 ≥ 1.2

・ 生産指数 = 
$$\frac{\text{蓄積計}}{\text{民有林針葉樹面積} \times 100 + \text{民有林広葉樹面積} \times 30}$$

= 
$$\frac{703,833}{1236 \times 100 + 853 \times 30} = 4.72$$

・ 育林指数 = 
$$\frac{\text{利用区域内の3歳級以下の面積}}{\text{民有林針葉樹面積} + \text{民有林広葉樹面積}}$$

= 
$$\frac{55}{1236 + 853} = 0.03$$

コスト削減、環境配慮等

当林道は山間部に位置しており、急峻な地形を有していることから、躯体の高さが大きくなる路側構造物などについては、補強土壁工を用いて可能な限りコスト削減に取り組んだ。

また、環境に配慮し、濁水対策としては、導水パイプや、盛土法面への丸太筋工や種子吹付工を施工するなど、早期緑化による法面の流出防止等を図っている。

代替案の可能性

残延長が約820mと短いことから、代替案は示していない。

対応方針

継続

